事　業　計　画　書
収　支　予　算　書

自　　令和　０２　年　４月　　１日
至　　令和　０３　年　３月　３１日

特定非営利活動法人　フォレストサイクル元樹

住　　所　　宮城県栗原市若柳上畑岡大立85-3
電話番号　　０９０-９６３１-１６１０

令　和　2　年　度　事　業　計　画　一　覧

	森林整備 保全事業	間伐材工房 運営事業	木質バイオマス 普及事業	木育等木づかい 普及事業
事業内容	1.森林・山村多面的機能発揮対策事業(林野庁) 2.原木しいたけ用ホダ木生産事業の安定化 3.既存作業路網の整備保全及び修復 4.カラマツ林の試験的伐採と出荷	1.林地残材・小径木をを活用した既存品ブラッシュアップ 2.既存商品・新商品の新たな販路開拓と、ネット販売の強化	1.イベント等での薪ストーブのアピールによる顧客の獲得 2.薪の新たな販路開拓	1.NPO等による復興支援事業(岩手県)
事業内容の詳細	1.岩手県岩泉町上有芸地域での原木しいたけ用ホダ木生産を、交付金を使い実施 2.「1」同様、原木しいたけ用ホダ木生産事業。本年度から新たな場所でのホダ木生産に着手。搬出の為の作業路整備は、新設ではなく既存路網の修復を重点的に実施。コナラ密集地の事前把握により、資源循環型森林保全事業の安定化を図る 3.昨年までの収益用出荷材はホダ木用コナラのみであったが、本年度はカラマツの伐採・出荷を試験的に実施し検証自然御意向に繋げてゆく。	1.ここ2年間で商品化を進めてきた、「木のたまごコロロ」・「きこりのバスヒーリング」・「森の樹のお位牌」・「フォレスキューブ」・「輪切りプレート」・「森の樹のツリー」のブラッシュアップ及び、補助事業を活用した岩手県内幼保施設への普及活動を最大限活用した新販路開拓 2.法人HPサイトへの新商品の情報の追加掲載によるネット販売需要増加を目指す	1.デモ用の「”夢ストーブ元樹”」をフルに活用し最低1件の新規の導入先を確保する。 2.宮城・岩手両県全域を中心に、薪ストーブユーザーへ果敢にアプローチをし新たな薪ユーザーの安定顧客確保に繋げる。	1.岩手県内全域30ヶ所の幼稚園・保育園・こども園等の、幼保施設にて、木のたまごプールを使用した遊び体験デモ実施。開催を通して「木のたまごプール」以外の木製品の紹介に繋ぐと共に今後のネットワーク強化を図る ＊本年度は、新型コロナの影響で対外的な活動に支障がでる懸念ある為、必要以上の活動は自粛
実施時期	通年：年間延べ日数約100日	2020年8月～2021年2月	薪作り・原材料保・薪の販路開拓は通年	7月～1月の中で15日間
実施場所	岩手県岩泉町	宮城県全域 岩手県全域	宮城県全域 岩手県全域	岩手県全域
実施予算	1.　4,200,000円 2.　　400,000円 3.　　400,000円	1.　4,000,000円 2.　　400,000円	1.　　50,000円 2.　250,000円	800,000円
備考欄	1.林野庁補助事業 2.自主事業 3.自主事業 4.パルシステム東京助成事業	1.自主事業 2.岩手県補助事業	1,2とも自主事業	岩手県補助事業

令和2年度（次年度）特定非営利活動に係る事業会計収支予算書

令和02年4月1日から令和元年年3月31日まで

特定非営利活動法人フォレストサイクル元樹

科目	金　額 (単位：円)		
1　収入の部			
1　会費収入			
正会員会費収入	¥　120,000		
学生正会員会費収入	¥　0		
賛助会員会費収入	¥　0		
		¥　120,000	
2　事業収入			
森林整備保全事業収入 （ホダ木生産事業・林野事業）	¥ 3,500,000		
木質バイオマス普及事業収入 （薪ストーブ販売＆設置工事等・原木＆薪販売）	¥　800,000		
間伐材工房運営事業収入 （間伐材加工品販売・受注製作等）	¥2,0300,000		
木育等木づかい普及事業収入 （ワークショップ。出前講座・イベント等）	¥　800,000	¥　5,100,000	
3　補助金金収入	¥ 6,500,000	¥　6,500,000	
4　寄付金収入			
当 期 収 入 合 計 (A)			¥ 11,720,000
前 期 繰 越 収 支 差 額			-¥1,504,915
収 入 合 計 (B)			¥ 10,215,085
II　支出の部			
1　事業費			
森林整備保全事業支出 （ホダ木生産事業・林野事業）	¥ 5,000,000		
木質バイオマス普及事業支出 （薪ストーブ販売＆設置工事等・原木＆薪販売）	¥　300,000		
間伐材工房運営事業支出 （間伐材加工品販売・受注製作等・販路開拓）	¥ 4,000,000		
木育等木づかい普及事業支出 （ワークショップ。出前講座・イベント等）	¥ 1,200,000	¥ 10,500,000	
2　管理費			
人件費	¥　744,000		
その他経費	¥　250,000	¥　994,000	
当 期 支 出 合 計 (C)			¥ 11,494,000
当 期 収 支 差 額 (A) – (C)			-¥1,278,915
次 期 繰 越 収 支 差 額 (B) – (C)			-¥226,000

令　和　元　年　度　事　業　計　画　書　①

特定非営利活動法人フォレストサイクル元樹

事業実施の方針

1.森林整備保全事業

①林野町補助事業を活用した、原木シイタケ用ホダ木生産事業の安定化

岩泉での事業活動が4年目を迎える。本年度も、計画上は3月まで年間を通して実施する計画であるがあくまで天候(積雪)次第である。本年度ホダ木生産目標も、昨年実績の8,200本以上を目指すが大きな懸念材料が有り出荷量や価格への影響を心配している。本計画書作成段階で、新型コロナ感染状況の収束が全く見えない状況下で、生産農家さんからのホダ木発注量にどの様に影響してくるのか？生産種別的には「食品」に分類される為コロナの影響で需要が増えるのか、飲食店自体の休業や客足の落ち込みの中で需要が大幅に減少するのか？8月後半～9月にならないとハッキリ判らないが、最悪の状況も想定しながら日々の活動を進めてゆく予定である。

②作業路確認・植生調査目的の森林調査及び作業路網の整備保全・修復

本年度から、施行面積30ha強の新たな地番でのホダ木生産に取り組む。昨年までの3年間は森林組合の助けを借りながら、林地調査や既存作業路確認と作業路新設を継続してきた。境界を含めた施行森林の特定は、岩泉事業スタート時から導入したGPSを使い、町役場で取得した国土調査図面を基に緯度経度を割り出し実施してきた。本年度は、前期に実施したドローン空撮画像によるコナラ密集地点をピンポイントで調査、自分達だけで新規施行エリアの森林調査を実施してゆく。本計画書作成段階では施行場所の特定は終了、既存作業路・樹種分布調査及び作業路の整備・修復を自力で実施してゆく予定である。この3年間で6本の作業路新設・修復を森林組合への業務委託で実施してきたが、雨が降る度に毎回修復を繰り返すと共に、施行と関係ない路網も地固目的で定期的に巡回を繰り返している。幸いにも本年度施行実施エリアの既存路網は、数年前の大型台風の影響も殆ど受けていないが、全ての作業路の定期的な点検は今後とも継続する。

森林整備活動・材運搬に必要不可欠な活動車両、いすゞエルフ1.5t新車を今季スタート直前に、軽トラ中古も昨秋入替にて導入。それまで使用のエルフは故障等トラブル続出、コスト＆安全を鑑み新車購入を決断、軽トラもエンジン不良で入替も安価で購入できた。新車トラックは、エンジン性能が飛躍的にアップ、材満杯状態での坂道走行も安定。軽トラも年式が古いだけで、走行距離も短く操作機器類含め信頼この上ない安定走行を実現している。両車両とも長く使える様、メンテを欠かさず丁寧な取扱を心がけたい。

令　和　元　年　度　事　業　計　画　書　②

特定非営利活動法人フォレストサイクル元樹

事業実施の方針

1.森林整備保全事業

③カラマツ林の試験的伐採と出荷

岩泉町での主な施行は原木シイタケ用ホダ木の出荷であることは今後とも変わらないが、今年度はそれに加えて、カラマツ材の出荷にチャレンジする計画を立てている。スギやマツ等の用材の流通も、コロナの影響を受け停滞し価格にも影響を及ぼしている現状があるが、本来は㎥単価が高く需要がある樹種のため状況を見ながら出荷をしてゆく計画である。その為の伐採候補地も既に想定済みである。

2.間伐材工房の運営事業

①林地残材や小径木を活用した既存品のブラッシュアップ

活動のテーマは法人立ち上げ当初から同じである。林地残材や間伐材・小径木等の未利用材の出口が拡大することで、できるだけ多くの森林資源を林地から搬出することを目指す。
岩泉事業着手後の3年間、施行過程で調達可能な色んな樹種の広葉樹を原材料に幾つもの木製品を開発してきたが、試作を繰返し新商品としての開発に漕ぎつけても、安定的な販路を持たない状況下で販売数量は微々たる現状がある。包装・容器・販促ツール等をお座なりにしてきた感が否めない。本年度は、商品自体のクオリティーUPに加え、顧客から見てより魅力的な商品開発を、パッケージ・販促物を含めた魅せ方もブラッシュアップさせてゆくことを、プロの力も借りながらチャレンジしたい。

フォレストキューブ

森の樹のお位牌”有芸”

木のたまご”コロロ”

森の樹のお位牌”上角地”

令　和　元　年　度　事　業　計　画　書　③

特定非営利活動法人フォレストサイクル元樹

事業実施の方針

森の樹のツリー：組みパターン４種

2.間伐材工房の運営

②新たな販路開拓とネット販売の強化

「間伐材工房元樹」で岩泉事業以降製作している木製品は、国内屈指の豊富な広葉樹を作った商品を岩泉発として普及拡大を図りたい、将来的には大都市圏中心に全国発信を目指している。ハンドメイドに頼る作業工程が多い為、今後とも一般的な流通形態の販路は厳しいと思うが、昨年の仙台三越での催事出店やイベント等での展示販売実績から木製品の潜在的ニーズを確信。前期終了間際には、仙台市青葉区「感性の森」及び岩泉町土産物店「横谷手しごと屋」にて法人初の委託販売がスタート。販売数量は少ないが、今年度、既存商品のブラッシュアップと共に、木製品普及の補助事業の中で法人HPの木製品紹介ページの拡充を実施、全国に向けた情報発信を強化する事でネット販売での普及拡大に繋げることを目指す。「森の樹のお位牌」も、ほぼ商品化レベルまで開発が進み、盛岡市内の老舗仏具店にて試験販売をスタート。プロのデザイナー・写真工房の力を活用し定期的にストーリーを発信してゆく。

木こりのバスヒーリング（８樹種）

令　和　元　年　度　事　業　計　画　書　④

特定非営利活動法人フォレストサイクル元樹

事業実施の方針

3.木質バイオマス普及事業

薪の新たな販路開拓と併せた薪ストーブ新規導入促進

今年度は、昨年中に薪ストーブ新規導入契約済みのお客様(山形県遊佐町)の設置工事が1件決まっている。今季はコロナの影響で毎年実施されていた薪ストーブイベントの開催も期待できない為、薪の新規顧客獲得を強力に推進してゆく。間伐材工房元樹敷地内に新たに約60㎥ストック可能な薪棚も単管パイプを組み設置済み。現在の薪固定客は5件だが、年度内にあと5件の固定客獲得を目指す。岩泉事業の際通過する岩手県内４号線沿線の煙突のある家をターゲットにセールスしてゆく。乾燥割り薪・生玉切り丸太共に、岩泉事業の行き帰りに納品が可能である為、岩手県中心に顧客開拓実施。

間伐材ステーションの薪棚(乾燥割り薪・未乾燥玉切り丸太)

4.木育等木づかい普及事業

復興支援事業を活用した「遊び体験デモ」の開催

本年度は、昨年中に新規導入した木玉製造機を使って、枝や端材等木材利用の歩留りアップにも繋がる「木のたまごコロロ」を使った「遊び体験デモ」を、岩手県内約30ヶ所の幼保施設にて開催する計画である。岩手県の復興支援事業を活用した事業実施であり、開催した施設での木製品導入のキッカケになることを目指す。ウッドブロックやログキッズなども安定的な人気がある遊具の為、木のたまごプール以外の遊具も体験してもらうことを想定している。この活動を通じ、岩手県内の幼保施設とのネットワーク構築も期待。コロナ感染予防対策を充分担保した上で推進してゆく計画である。

木のたまご”コロロ”のプール(Ｓサイズ：４～５人用)